

3年目の親子鷹

弁護士 田中 秀雄

◎私は東京の高田馬場、早稲田大学の近くで生まれ育った。早大のお膝元で育ったせいで、大学は当然の流れで、早大を志望した。身内に法曹関係者は1人もいなかったが、高校生の頃弁護士を描いたテレビ番組で弁護士に憧れ、法学部を



1974年 司法修習中の北海道旅行にて

目指した。しかし、当時の司法試験は3万人が受験して合格者わずか500人という超難関で、ちよつとやそつとの勉強では受からなかった。

◎卒業後、損害保険会社に就職した。損保に決めた理由は定時に帰れるので、早く帰って司法試験の勉強ができるためだった。そんな思いもどこ吹く風、5年間のサラリーマン生活を謳歌している間に当初の司法試験を志す気持ちもどこかに消え失せていた。「このままでいいのか」という思いで27歳の時5年余り勤めた損保を退職してしまった。今思うと実力も伴わず無謀な挑戦だった。その年たまたま小中高大と親しくしていた友人が司法試験に合格したという話を聞いた。これまでは夢であった司法試験がよく知っていた者が受かったことによって俺でも頑張れば受かるかもしれないと思うようになった。たまたま会社を辞めてから2度目の挑戦で受かったが、この2年間は寝ても覚めても司法試験のことだけを考えて努力した。あんなに勉強したことはないし、あの日々があるから今があるとも思う。

◎司法試験に合格後、サラリーマンの時に転勤で仁川に住んでいたこともあり、神戸で司法修習を行った。修

習中お世話になった事務所に誘われ、弁護士生活をスタートさせた。

◎離婚、交通事故、貸金返還請求、相続、遺言、債務整理、刑事事件など様々な事件を受任し、時には公害事件の弁護団に加わり、裁判となれば毎月、期日に追われ日々格闘して、気がつけば38年の月日が経っていた。相手方と交渉し、依頼者を説得し、裁判所と折衝する。もちろん楽しいことばかりではない。だが、そんな苦しいことも、依頼者に「本当にお世話になりました」「ありがとうございました」と言ってもらえるだけで報われた。

◎平成25年1月、38年いた事務所を辞め、独立して「法律事務所 絆」を立ち上げた。遅い独立であり、無謀ではないかとも言われた。私は弁護士を目指して会社を辞めた時も必ず受かると思って辞めたのではなく、後で後悔したくないから挑戦したのである。今回の独立も同じだ。もう歳だと後悔したくないからまた挑戦したのである。



1996年 前事務所の記念パーティーでのスピーチ

◎そして、息子が弁護士になり、当初息子は東京か横浜で弁護士をやるつもりだったが、ひょんなことから神戸に帰ってくるということになった。さらに日々格闘しながら2年半が過ぎた。今のよう親子鷹で事務所をやることを予定していた訳ではない。でも、自分で息子に背中を見せながら教えられることは幸せなことだと思う。



1987年 海遊館(大阪)にて 勇輝5歳

◎私の人生は、たまたまが多い。たまたま司法試験に受かり、たまたま入った事務所が良い事務所で居心地が良くて38年もいたり、エイヤつと独立したらたまたま依頼者の方々から支えられて何とかやれている。有り難いことである。強運の持ち主である私はこれからもたまたまに期待して無謀と言われようと挑戦し続けるであろう。